

令和2年度 園の自己評価

A…できている B…おおむねできている C…一部改善を要する D…改善を要する

| 1. 保育理念、保育観 | | |
|--|---------------------------------------|---|
| 1 | 園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している | A |
| 2 | 園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている | A |
| 3 | 定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている | B |
| 4 | 全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている | A |
| <p>年度の始めには、理事長、園長から園の方針について説明がされ、全職員が共通理解をした上で、保育にあたることができるよう心掛けている。</p> <p>今年度はコロナ禍ということで、コロナ対策を意識した保育のしかた、行事の在り方が見直された。全体的な計画の中で、その行事で何が育つのかを分析し、簡素化をする行事については、その行事の目的が達成されるために、どこを残して、どこを削除していくのか、という話し合いを多く行ってきた。保育者は、自分の保育についての自己評価チェックも行い、評価のよくなかった項目に対しては、そのことを意識しながら保育を行うような姿勢に変わり、年々、自己評価の点数も上がっており、保育技術や保育内容が確実に向上していることが伺える。</p> | | |
| 2. 保育計画、保育実践と振り返り | | |
| 1 | 全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている | A |
| 2 | 子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している | A |
| 3 | 配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている | A |
| 4 | 保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている | A |
| <p>クラス計画は、クラスリーダーが主に作成するが、クラス会議でその内容について見直しや話し合いが行われている。</p> <p>また、常勤、パートなど雇用形態に関わらず、すべての保育者は毎月、その月の保育計画にそって、自分の保育における子どもの評価と自己評価を書き表し、反省評価が次月につながるようになっている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で、様々な行事の在り方が見直されたが、安易に中止、縮小を決めるのではなく、「どうしたら実施できるか、コロナ禍で行うための工夫」を職員が話し合い、考えながら行ってきた。特に年長児においては、園生活最後の一年となり、必要な経験も多い中で、保護者の協力も得ながら進めることができたことは有難いことだった。発表会は年齢別で行ったり、卒園式も保護者の人数制限など、例年とは違う部分も多かったが、子ども達の達成感や充実感、喜びを感じ取ることができ、良き終了の運びとなれたと思う。</p> | | |
| 3. 環境、安全 | | |
| 1 | 一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している | A |
| 2 | 園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている | A |
| 3 | 職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている | A |
| 4 | 職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている | A |
| <p>本園は防災対策には意識を高くもっている。今年度は、防災の係の職員が静岡市の地震防災センターへ見学へ出かけ、地震防災アドバイザーによる園内研修につなげるなど、これまでにはない専門性が高い取り組みもできた。</p> <p>また、昨年の評価では、不審者訓練が進まないことが課題にあげられていたが、今年度は放火を想定した不審者訓練を行ったほか、園の周囲をうろつく実際の不審者に対する対応があり、地域の交番との連携など、訓練の取り組みが生かされた。安全管理においては副園長を中心に行われており、気になることには素早く対応し、改善が計られている。</p> | | |
| 4. 食育 | | |
| 1 | 職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている | A |
| 2 | 栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている | B |
| 3 | 食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている | A |

| | | |
|---|---------------------------------------|---|
| 4 | 離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している | A |
| <p>じゃがいも、さつまいもの芋ほり体験をはじめとし、季節の野菜を栽培してクッキング活動に役立てたり、給食では旬の食材を積極的に取り入れて季節の味わいを楽しむことができています。食育活動の中心は、クッキング活動であるが、今年度はコロナ禍ということで、クッキング活動にはより慎重になり、その時の新型コロナウイルスや社会の状況に合わせて、活動を進めてきた。</p> <p>食物アレルギーや離乳食は、ひとり一人に合わせたものの提供をしなくてはならないので、大変な部分でもあるが、今年も、アレルギー児の誤食はゼロ。家庭と給食室と担任との連携や二重、三重のチェックが効果を表していると思う。</p> <p>保護者への給食アンケート調査では、園の給食における満足度は高い評価を得ているので、今後も保護者の期待に応えられるようなおいしい給食作り、食育を続けていきたい。</p> | | |
| 5. 職員構成、役割分担、研修 | | |
| 1 | 職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている | A |
| 2 | 園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している | A |
| 3 | 各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている | A |
| <p>年度初めに主幹保育教諭を中心に、園務分掌として、園の運営における係や行事担当を決めているが、各職員の個性や得意なことを生かしながら、適材適所の配置を心がけ、一人ひとりの力が発揮できるように配慮をしている。</p> <p>園内、園外の研修には人員配置を工夫しながら積極的に参加するようにしているが、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、研修会も少なく、個々の自己啓発が求められた。また、モンテッソーリ教育の講師である、伊藤先生の来園もままならず、大半がリモートで行われた。だが、オンラインでありながらも、毎月の研修を重ねてきたことは、コロナ禍においても、保育を衰退させることなく、高い水準を保つ保育ができたと思う。</p> | | |
| 6. 保護者支援、子育て支援 | | |
| 1 | 保護者に対し、園の保育保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている | A |
| 2 | 保護者の状況など、個人情報への漏えいにつけています | A |
| 3 | 保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている | A |
| 4 | 地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている | A |
| <p>園だよりやクラスだよりは、日頃の活動の様子を伝えられるよう、カラー印刷でわかりやすく時間をかけて作成し、努力している。</p> <p>各保育者は、毎月の子どもの様子を観察し、保護者へ発信したいことや、子ども達の成長をよくまとめたものを作成し、保護者からも好評を得ている。また、門扉の横にある大きな掲示板では、園の活動紹介を写真を交えて積極的に行い、保護者だけでなく、地域の子育て中の親子や地域へ向けてのよい情報発信の場となっている。</p> <p>また、月一度の「子育てサロン」は、コロナ禍ということで、実施を見合わせるという選択肢もあったが、コロナ禍の中、子育て中の母親、もしくは親子が、より一層、閉塞感を感じたり、行き場のなさが大きなストレスや不安につながっているのではないかと考え、サロンを開催することが子育て支援につながると判断して行ってきた。感染対策を強化したり、予約制での人数制限をするなど、例年と同じようにはいかなかったが、それでも来園される親子には喜ばれる場所や時間となっていたことが伺えた。</p> | | |
| 7. 小学校や地域社会との連携 | | |
| 1 | 定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている | C |
| 2 | 町内会や地域の方との交流を積極的に行っている | B |
| 3 | ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている | A |
| <p>地域の小学校、保育園、幼稚園との交流の場は基本的にない。これは、地域全体で取り組まないとなかなか難しい課題であるともいえる。</p> <p>正式な場はないが、年長児においては、小学校の授業参観や運動会を保護者と一緒に見学に出かけることを勧めるなどしている。しかし、今年度においては、新型コロナウイルスの影響で、地域の行事も取りやめや、園外保育も自粛することが多かったため、例年と同じような経験を促せなく残念に思うことが多かった。地域の老人ホームへの慰問もできなかったが、ビデオレターを届けるなどして喜ばれた。コロナ禍でもできることを探しながら積極的な取り組みを心がけた。実習生の受け入れについても今年度は少なかったが、受け入れた学生に対しては、職員全体が温かく迎え入れる姿勢を持ち、丁寧な指導を行いことを心掛けている。受け入れ後の礼状などを見ても、有意義な実習経験になっていることが伺える。</p> | | |